



渋谷区立原宿外苑中学校 令和4年1月号(1月11日発行)

学校だより

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/haragaij>



各新聞社の元日の社説から「2022年の学校教育」を展望する

校長 駒崎 彰一

一般社団法人「新聞協会」によると、新聞発行部数は、新聞販売収入とあわせ減少を続けている状況にあり、特に若者世代の「新聞を買わない・読まない・評価しない」ことが顕著となっています。インターネットがスマホによって個人にまで普及した現在では「情報はタダ(0円)」で入手できるようになり、新聞を切り捨て「新聞離れ」が今後も進行していくことが予想されます。

インターネットは、多種多様な情報が溢れており「ノイズ過多」と言われています。このような状況下では、特定の情報だけが大きく見え、別の情報が見えなくなる「プリズム効果」があり、自分の考えに近いものにばかりフォーカスがあたり、逆に関心がない分野については視野が狭くなってしまいう傾向があるそうです。また、最近では過去の閲覧歴や検索歴に合わせて、画面に表示される内容が変わってくる仕組みになっており、入手する情報が「偏る」危険性が高いと言われています。このように捉えると、インターネット上の情報の選別には、情報を見極める知識とスキルが問われるため、インターネットによる情報収集は「上級者のメディア」とであると考えられます。

その点、新聞は世の中を知るための「基本ツール」と言われています。一面から順にめくっていけば、政治、経済、国際情勢、文化やスポーツ、国内・地域情報と世の中の動き全体を短時間で俯瞰できるつくりになっています。この「一覧性」は新聞の最大のメリットです。また、単にニュースを配信する「NEWS PAPER」としての機能だけではなく、社説やコラムを通して様々な「見方・考え方」を知る「OPINION PAPER」としての機能があり、新聞紙面は「事実を知る」だけではなく「多くの考え・意見を知る」という利用もできます。(このため新聞は2紙以上読むと良いそうです。)このように捉えると「若者」はインターネットより新聞で「情報収集」する力を鍛える必要があるのではないのでしょうか。

15年程前に上司(当時K区教育長)から新聞を読むことを勧められ、元日には全国5紙を読み解くことを続けています。特に各紙の「社説」について、じっくり読み込んでいます。「社説」は、日々生起する政治、経済、社会などの時事問題について、各新聞社の主張や考えを各社の責任において掲載するもので、日本の「今」の「見方・考え方」をタイムリーに捉えるものであります。新年元日、各新聞社の「社説」を読み解くことで、2022年の「学校教育」について考えていきたいと思ひます。

読売新聞は「災厄越え次の一步踏み出そう」として、感染抑止だけではなく、コロナ禍で傷んだ社会生活の修復に取り掛からなければならないと主張を展開しています。『そのカギとなるのが、「イノベーション(技術革新)」にある。イノベーションはふつう「創造的破壊」と解されているが、提唱したシュンペーターが強調したのは「新結合」である(「経済発展の理論」)。生産手段の新しい結合を通じて、新しい生産方法を創出すること。創造的な企業家たちの、そうした努力が新しい産業を生み、経済の発展をもたらす。』として、これまでも様々なイノベ

ション(技術革新)により人類は課題を乗り越えてきていることを強調しています。

この「イノベーション」について、年末の日本経済新聞で坂井修一 東京大学教授が「模範解答を離れて」と題して『日本の大学の入試問題、特に数学や理科の問題は、それがいかに難問であっても、解くための材料がすべて与えられており、模範解答がある。いっぽうで、われわれの人生や社会の諸問題は、決断のための材料が揃（そろ）っていないことのほうが多い。まして、模範解答などどこにもありはしない。

受験秀才の中には、30歳近くになってもこのことに気づかない人がいる。成績表を見れば「優」がずらりと並ぶ。学業には非の打ちどころがない。就職もうまくいった。でも、自分の人生を自分で設計し、実現するための力が備わっていない。自分らしい生き方を選べず、世間体の良い仕事に就いて、「順調!」と思っていると……。昭和の高度経済成長期ならともかく、今はこれでは通用しないだろう。

成績を測る物差しは過去に作られたものである。おじいちゃん、おばあちゃんの鯨尺(くじらじゃく)のようなものだ。実社会で問われるのは、新しい付加価値を生む能力やイノベーション(技術や社会制度の革新)を起こす能力であって、当然、鯨尺で測れるものではない。というわけで、世の中では、「最大の付加価値を生むための教育」や、「イノベーションを起こす研究」が重視されてきている。さて、この現状をどういうふうに見ればいいだろうか。

私のように研究者を長く続けてきた者は、付加価値やイノベーションがそう簡単に産み出せるものでないことを熟知している。必死の努力を積み重ねて、それでも成功するのは10件に1件あるかどうかである。分野によっては100件に1件か、それ以下だろう。

最近の報告書などを読むと、「ITイノベーションで日本再生を!」といった文言に出くわすことが多くなった。このこと自体に問題は無いし、私自身もそのための努力を重ねているのだが、しばしば「イノベーション=模範解答」という論調が見られるのには、大いに違和感を覚える。革新をもたらすのは、100点を取る精神ではない。未知の世界を切り拓く冒険心なのである。そこには、整備された花園などは無い。開拓を待つ荒野が広がっているだけだ。』と論じています。

単に一つの正解を探す「模範解答の追究」だけではなく、試行錯誤を粘り強く繰り返し、そして泥臭く努力を積み重ねることで成功へと導く。「付加価値」や「イノベーター」を育成するヒントがこの記事にはあります。

朝日新聞は「憲法75年の年明けに データの大海で人権を守る」として、「憲法によって個人の基本的な人権を保障しているのと同じように、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンのGAF Aと総称される巨大IT企業の行動についても一定の枠をはめ、個人を守るべきだ」という議論がなされている。」と書き出しています。いわゆる「利便性と個人情報保護」の課題です。学校教育でも今後の大きな課題の一つになるはずで

毎日新聞は「民主政治と市民社会 つなぎ合う力が試される」として、『「数の力」にものを言わせる政治と、市民との距離が広がっている。』と主張を展開しています。

『現在の民主政治の土台は、有権者が選挙で自らの代表を選ぶ議会である。だが、議員を介する分、人々の声が十分に政治に反映されにくいという問題も抱えている。(中略)日本でも市民がITで社会課題を解決する「シビックテック」が注目を集め、沖縄ではコロナや地元議会の関連情報の発信が進む。予算編成に市民が関与する仕組みも三重県などで導入されている。(中略)人々が声を上げ、政治がその多様な意見を吸い上げる。市民と政治をつなぐ民主主義の力が試されている。』

これからは、学校でも「社会」と「学び」を繋ぐことが重要になってきていると感じています。授業の中で単に知識を伝承するのではなく、社会での「見方」や「考え方」を育成していく時代になっていきます。

産経新聞では、「年のはじめに」と題して、論説委員長が『明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。』と書き出し、この祝詞が書かれた年賀状の激減に触れ『スマホの急速な普及によってSNS全盛時代になり、手間暇かけて新年を寿(ことほ)ぐためだけに年賀状を書く若者が激減してしまったことだ。若者でなくとも長引くコロナ禍で、「おめでとう」気分になれない人々を気遣ってやめた、という会社も知り合いも結構多い(会社の場合は、経費削減の意味合いが強いが)。だが、この国は「おめでとう」国なのだ。本当に。正月くらいまでは、明るい話をしたい。』と主張を展開していきます。

平和が続く「おめでとう国」だからこそ、有事、もしもの事態が発生したときの備えについて考えておく必要があるとしています。学校も「おめでとう」感覚だけではなく、あらゆる想定を準備していく必要があります。

日本経済新聞では、「資本主義を鍛え直す年にしよう」として、18世紀の産業革命で広がった資本主義が3度目の危機にあるとして、戦前の大恐慌期、戦後の冷戦期に続く、経済成長の鈍化が格差を広げ、人々の不満の高まりが民主主義の土台まで揺さぶり始めていると展開しています。『新型コロナをはじめ感染症対策でも、途上国へのワクチン支援など国際協調が必要なのは言うまでもない。体力低下が目立つ資本主義を磨き鍛え直す。その契機になる年にしたい。』とまとめています。さらに、1・2面に特集「成長の未来図」で次のように方向性を示しています。『資本主義、創り直す 解は「フレキシキュリティー」に』と題して『「柔軟性(フレキシビリティ)」と「安全性(セキュリティ)」を組み合わせた「フレキシキュリティー」』を紹介しています。

学校教育もこれまでの慣例にとられることなく「柔軟性(フレキシビリティ)」をもって取組を進めていくとともに「安全性(セキュリティ)」を確実に確認しながら「フレキシキュリティー」に!

時代の流れを捉えた日本一の学校を目指していきたいと思えます。

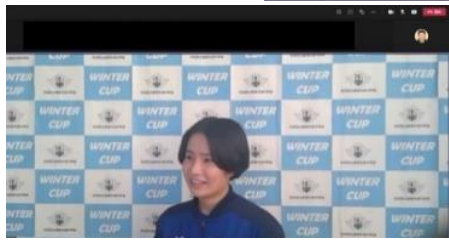
世界人権デー&人権週間

「世界人権宣言」が1948年12月10日の国際連合総会で採択されたことを記念して、毎年この日を「世界人権デー」としています。そして、この直前一週間（12月4日から10日まで）を「人権週間」として各地で様々な取組が展開されています。本校でも生徒会活動として「大切な人へのメッセージ Love Tree」を制作し玄関に掲示しました。また、「世界人権デー」12月10日には「東京人権擁護委員協議会」渋谷地区の人権擁護委員の皆様をゲストティーチャーとしてお迎えして、2年生が人権について考える道徳授業「Respect Others リスペクト アザーズ」を実施しました



Winter Cup 2021

体育委員会（生徒会）主催の希望参加スポーツ大会であるWinter Cup 2021。今回はバスケットボール。昼休みを中心に行われました。感染症対策のため体育館での観戦は8時から玄関で配付される限定チケット制（プレミアムチケットとなったようです）。チケットを入手できなかった生徒にはオンライン（Microsoft Teams）で生中継配信。試合の実況解説はDJ-T、試合後には勝利者インタビュー。全て体育委員会により運営されました。優勝チームと教員ドリーム・チームのエキシビジョン・マッチもありました。（下写真はオンライン配信映像です。）



原宿外苑大根 収穫・出荷

技術科の授業で2年生が栽培に取り組んだ「原宿外苑大根」を収穫して各家庭に出荷し（持ち帰り）ました。収穫後に重量を計測して写真撮影、東京都の中学生大根栽培コンテストに参加します。

教員チームで育てた大根は、12月10日の給食「きくらげスープ」にて全校で食しました。前日9日の夕方に給食室に6本10kgほど納入しました。スープの大根は原宿外苑大根100%でした。教員チームで育てた残り的大根は、ひそかに調理室で「沢庵」への加工作業を続けています。





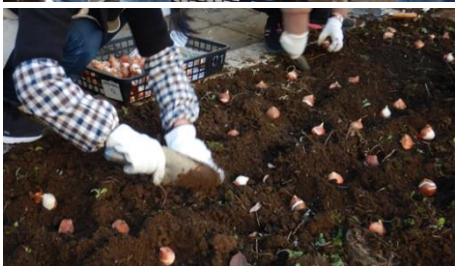
文化庁「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」 谷桃子バレエ団公演

千駄谷小学校とのコラボ企画で文化庁「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」に応募。本物のバレエ公演が実現しました。全校児童・生徒が3回に分かれて本校体育館で鑑賞しました。



花(チューリップ)いっぱい大作戦

原宿外苑中学校を「花」の名所に! 地域のホットとする空間を創るためのチーム原宿外苑(地域・保護者・生徒の有志)の「大作戦」がスタートしました。「雑草の除去」からスタート「土を耕し」仕上げに「チューリップの球根」を大量に植えました。



表彰

- 男子バスケットボール部 渋谷区中学校新人大会 2位 優秀選手賞 村井 弾
- 女子バスケットボール部 渋谷区中学校新人大会 2位 優秀選手賞 林 楓子
- アイスホッケー 東京都選抜 大林 晴
 - 令和3年度関東中学校アイスホッケー大会兼第42回全国中学生大会関東代表決定戦に出場し、全国大会に進出決定
- 「しぶやおすすめの本50」2021 読書コンクール
 - 本の部の部 金賞 1年 清水 嶺衣
 - POPの部 金賞 2年 土信田 紗羅

		日	月	火	水	木	金	土
今月の 予定	1 月	※感染状況等により予定は変更になることがあります。					2022年 (令和4年)	1 元日
		2	3	4	5	6	7	8
							→ 冬季休業日終	
		9	10	11	12	13	14	15
			成人の日	全校集会	職員会議		なみき祭準備	なみき祭 (展示の部) *弁当持参
		16	17	18	19	20	21	22
		しぶやニュー 駅伝2022	渋谷区防災点検の 日 専門委員会	避難訓練 内科検診(2)	職員会議	中央委員会		
		23	24	25	26	27	28	29
			生徒朝礼	安全指導	スキー教室(2) 都立推薦入試	スキー教室(2) 都立推薦入試	スキー教室(2) 校外学習(1)	
		30	31					
	職員会議							
来月の 予定	2 月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4	5
						校外学習(1)		土曜授業日 新入生保護者説明 会(14:30~)
		6	7	8	9	10	11	12
			専門委員会	避難訓練		中央委員会	建国記念の日	
		13	14	15	16	17	18	19
			生徒朝礼	安全指導	職員会議		渋谷区立中学校教育 研究会研究発表(午 後カット)	
		20	21	22	23	24	25	26
			都立一般入試 後期末(12)	後期期末考査	天皇誕生日	後期期末(12) 修学旅行(3)	修学旅行(3)	修学旅行(3)
		27	28					
	3年振替休日 専門委員会							